

名誉園長の部屋

<news>

名誉園長さんときまぐれ散歩
御好評いただいております、きまぐれ
散歩。6月24日(日)13時に植物園
会館前集合で開催されます。
今月はどちらに向かわれるのか。
お楽しみに！

「名誉園長の植物園
おもしろガイド」
好評発売中！

「打って出る 京都府立植物園」
名誉園長の植物園再生への熱い想い
が満載！ 好評発売中！！

<プロフィール>

- [1975年 京都府入庁](#)
- [1995年 京都府立植物園勤務](#)
- [2006年6月 京都府立植物園長就任](#)
- [2010年5月 京都府立植物園長退任](#)
- [同 京都府立大学客員教授就任](#)



松谷 茂

今、これを見てほしい！

花びらや苞(ハウ)は葉が変化した器官である

お堅い表題になりましたが、花びらの元は何かというと「葉」である、ということが言いたいのです。機会あるごとに現物を前にして話をするのですが、「何を言うたはんのやろ」派と「へえー、はじめて知ったー、オモロー」派に分かれる現実があります。

苞も、その元は「葉」です。誰ですか、ホーとうなずいている人は。

苞は、その形が葉に似ていることがありますので何となく分かり易いかも知れません。

例えば、ポインセチア。色がついていて我々が鑑賞するところは、苞です。明らかに葉脈が見えますね。



写真1 ポインセチア

ハンカチノキも二枚の苞が、まるで花びらのように見えています(写真2)。ハンカチノキの苞は、展葉したての頃の色が緑色(写真3)、葉と同じ色をしていますので気がつきにくいのですが、4~5日経つと白くなり「アッ、咲いてきた!」とわかります。

苞をよく見ると、これも明らかに葉脈が見えます。



写真2 ハンカチノキ



写真3 ハンカチノキ(展葉3~4日後)

ヤマボウシやハナミズキ(写真4)も、白く色づいている器官は、苞です。



写真4 ハナミズキ

花びらの元々は葉である、の説明でよく使うのは、「御衣黄(ぎょいこう)」(写真 5)というサトザクラの一種です。



写真 5 御衣黄

この御衣黄、花が咲いてもほとんど気づかれない桜です。これは花びらの色が葉と同じ緑色だからなのですが、この緑色は葉緑素、つまり、光合成は、葉だけでなく花びらでも行っていることがわかります。ということは、花びらは葉が変化したものであることにほかなりません。

では、タイサンボク。この樹木については、名誉園長の部屋No.1で、「被子植物では原始的と言われています」と、話題にしましたが、花の内部をよく見てください。咲き始めの純白(写真6)は恐ろしく美しく、また香りが最高です。写真7、花の軸の上部に多数の雌しべからなる雌しべ群が、その下の赤く見える部分には、多数の雄しべが落ちた跡が見えます。この落ちた跡を注視すると、らせん状に配列している様子がわかります。さらにその下のやや狭いですが茶色くなった部分には、花びらとガク片が落ちた跡がらせん状になっています。

花の軸にらせん状に配列していることが、枝についている葉のつきかたに似ていることから、花は葉が変化したものである、の証拠であると言われていました。

また、タイサンボクは、古い地質時代の化石として出てきますので「古代の花」と呼ばれることもあり、原始的の所以でもあります。



写真 6



写真 7

おまけ。

写真8は、本日(2012.6.12)撮影してきたタイサンボク三兄弟です。さて、この花たち、いつ頃咲いてくれるでしょうか(ここ2~3日のうちに咲くような...)

花は三日花。お急ぎください。

場所は、植物園会館の前やや西。

目線の高さで観察してください。



写真 8 タイサンボク三兄弟